

令和2年度

第2回

教育課程編成委員会報告書

於：令和3年2月22日
学校法人長野県理容美容学園
長野理容美容専門学校

第2回教育課程編成委員会 報告書

日 時：令和3年2月22日（月）14:00～

場 所：長野理容美容専門学校 校長室

出席者：SORA 伊藤 秀一 先生

スタジオエーワン 小出 誠司 先生

松林校長・柏原教務主任・中澤主任

○松林校長より

先週、学校関係者委員会が行われ、そちらの席でもお伝えしましたが、この日も丸3年が経ちました。教育は3年目に成果が表れると言われている通り、内部の職員だけでなく、委員の先生方の違った視点でのご意見は大変ありがたく成果が表れてきております。3年目の今年を踏まえたうえで、また新しい3年間を始めていきたいと思っております。本日は、教育内容を重点的に議論していただき、忌憚ないご意見を頂戴したい。

【議題】

1. 令和2年度第2回自己評価委員会報告・学校関係者委員会報告

令和2年度自己評価・自己点検中間報告について（資料1）

令和2年度学校関係者評価委員会報告（資料2）

（基準1） **総括** 両校ともに教育理念を、今の時代に合ったわかりやすい文言に変更。美容科1学年は引き続きサロンカット授業、2学年は選択授業でメイク、ネイル、セット、パーマのうち2科目を選択する授業を行った。ビューティビジネス科はブライダルに特化した技術習得カリキュラムを導入している。

・学校関係者評価委員より、学生の評価意見を反映し、教育理念を大切にして学生にしっかり伝えていってほしいとご意見を頂いた。評価は適切に行われている。

伊藤委員コメント 教育理念・目的・人材育成は土台となる部分で、大事にするところである。長野理容美容専門学校は「挨拶・返事・礼儀・整理整頓・清掃」を重点目標として、しっかり育ててくれていると感じている。教育理念がより分かりやすくなることは良い。

小出委員コメント 素晴らしい教育理念であると思う。新校舎も楽しみの一つ。将来のためにいいものができるとうい。

（基準2） **総括** ・第8次5か年計画。危機管理体制、施設設備の充実。リモート設備と新校舎建築事業の推進。

・インスタグラムなどを活用し、学校の情報提供をするなどウェブサイトの充実を図っている。評価は適切に行われている。

伊藤委員コメント 今年は、慣れない中何をやるにしても大変な1年だったと思う。良い方へ考えると今までできなかったことも、アイデア次第で新しい形で実現できるようになったともいえる。生徒の作品や学校からのインスタグラムは、おしゃれになってどんどんと良くなってきている。少なからずこの委員会での話し合いも生かしているのではないか。

小出委員コメント 第3波でどのようにリモートが活用されたのか。→現在の校舎はすべてなくして新校舎を建てるため、Wi-Fiはレンタルで対応した。外部講師のデモンストレーションなどをビデオで撮影し、有線で各教室に配信し、テレビ画面をモニターとして使用した。また、緊急事態宣言である今現在は、東京の講師にZOOMで対応して頂き、デモンストレーションや評価を行っていただいている。オンラインコンテストや、就職活動、高校生や中学生への説明会などにもZOOMで対応した。→ 変化していく時代に対応して、施設設備を充実していってほし

い。

(基準3) **総括** 幅広い教養や社会人基礎力の養成を目的とし現代に沿った教育のため、産学連携授業を取り入れている。休校期間はもちろん連休明けなど、健康観察と共に授業アンケートや悩みなど不安な事についてのアンケートを取っていた。生徒の悩み多くは「この状態で国家試験に合格できるまでの授業ができるのか。」「就職活動は思うようにできるのか。」また「就職できるのか。」という不安を抱えていた。職員の講習では、リモート授業が速やかに導入できるようリモート授業の講習会を行った。また、メンター講習やパーソナルブランディング講習会も指導に役立った。学校関係評価者委員より、先生方の自己肯定感が低いため、先生同士で褒めあい認め合うことが大事。コミュニケーションを密にすることが大事だと感じた。授業アンケートもきちっと振り返りを生かして行ってほしい。また、自己肯定感の低い学生に対しては、ラインなどの SNS を大いに活用すべき。面と向かって言えない人も、ラインでは自分の思いを伝えてきてくれる。学生の様子も年々変化していくので、柔軟に対応すべき。先生の思いを聞く機会も必要ではないかといいただいた。先生方は委員の意見を前向きにとらえて生かすことができている。

伊藤委員コメント

今の時代の若い人に合わせていくことに、サロン側も苦勞している。サロンと密接に取り組んでいく必要がある。また、美容業界でもコンテストやヘアショー、講習会が思うようにできず、1年イベントなどをやめてしまうと戻るのが大変になってしまう。入社前はモチベーションが高かったのに、勉強しない環境が普通で、樂をすることが当たり前になってしまった。これで2年でできなかつたら大変なことになってしまう。やれることはやっていこうという方向になってきた。モチベーションアップするには、必要である。

小出委員コメント

生徒の声を聴いてスピーディに気持ちを受け入れ、すぐ行動していかれるといいのではないかと。面と向かって言えないということならば、アナログになってしまうがポストを設置し、悩みや意見やアイデア等募集するのもよいと思う。

(基準4)

資格試験や検定試験はほとんどが実施することができて合格率も高い。実施できるイベントが少なかったが、オンラインバトルやフォトコン、リモートコンテストなど新しい形のコンテストに参加することができて結果も伴った。

しかし、精神面の不安や、金銭面からなる目標の揺らぎで休退学者が10名でてしまった。学校関係者評価委員から、将来への不安もあるのではないかと。パニック障害や学習障害などの難しい生徒がいると思うが、その都度学校全体で方策を検討してよい方向へ進んで行ってほしい。専門のカウンセラーとうまく連携が取れているようだが、スクールカウンセラーとの連携も必要だと思うと頂いた。学習障害やパニック障害などである場合、経営者に伝えた方がよいのか。→

伊藤委員コメント

本人の辛さを考えると伝えた方がよい。障害あっても国家試験が取れているのであれば、野党側の判断。教えてもらうことで分かりながら対応できるので、フォローができる。

秘書検定が難しいようだが、どんな内容か。→ お茶の出し方から、エレベーターの案内の仕方、文章の書き方などで2級は範囲が広がる。基本的には、全員が学べる。秘書検定を持っていると、特別待遇になる企業もあるため、ビューティビジネス科では取り入れている。→ 資格がることはいいことだ。

(基準5) **総括** 文部科学省の学びの保証へのガイドラインに沿って修学支援を推進する。高等教育修学支援

給付金対象者1学年10名、2学年6名。

休校期間にも学年や担任からのリモート授業や体調確認、意識調査などにより早めの対応を行うことができた。

感染防止マニュアルを作成し、毎日の健康観察を行った。

就職活動はリモート面接が多く、書類選考で落とされるケースがあり、厳しくなっている。学校関係者委員よりレスポンスの速さが大事だと頂いた。

伊藤委員コメント

就職の県内、県外の割合はどうか。 → 例年通り3割東京、7割地元で就職内定頂いた。県外希望だったの学生の中で、保護者の反対により県内にした学生も少なからずいる。

→ 今年は県外のほうが遅く、県内のほうが早い動きだったと思う。

小出委員コメント

実技の国家試験までの様子はどうだったのか？リモートではなかなか伝わりずらく大変だったと思うが。 → やはり、その場で手に取って教えることができなかつたので、直接対面して指導するほうが伝わる。例年心配な生徒はいるが、間際まで心配な学生がいた。

→ ワクチン接種も早急の効果としては難しく、また第4波も心配である。リモート授業の効果的なやり方を情報収集し、1歩進んだリモート授業を取り入れていく必要があると思われる。

伊藤委員コメント

修学支援とはどんな奨学金なのか。 → 本校は修学支援の指定校として認定 県と国からの補助で収入と成績をその都度審査し、認定会を開いて決定していく → ありがたい補助であると思う。

学生だけが見れるようにパスワードと設定をしたユーチューブにあげて、技術指導のほうも強化できるとよいと思う。

(基準6) 総括 実務実習や来校実習、アゲインイベントなど実施できなかったイベントが多かったが、校内競技会や、オープンキャンパスのヘアショーで美容の楽しさを伝えることができた。2月23日、1学年とビューティビジネス科によるヘアショーを実施予定。クラス入れ替え制で保護者のみの観覧。学校関係者評価委員より守る時期は終わった。どうやったらできるか前向きに取り組んでいく方向になってきていると意見を頂いた。

伊藤委員コメント

やらないということが安全策で楽ではあるが、美容師本来のモチベーションであるヘアショーが実施できるのはよいことだ。

小出委員コメント

感染症拡大し始めた当初、コロナは得体のしれないもので学校も休校せざるを得ない状況だった。今は対策の仕方がわかってきている。状況によって実施方法は様々だが、工夫して進めていってほしい。

(基準7) 総括 : オンライン形式のガイダンスが増えた。現在の高校1、2年生のガイダンスがほとんど行えていない状態である。来年度は123名の入学予定者ということで、今年度入学者より増えたが、来年度以降は知っていただける機会が少なかったため不安である。実務実習でのシャンプー練習のご協力や、ナガコレやイベントの参加などで、在校生の満足度を上げていきたい。ナガコレ先生では中学生の職場体験に対応して頂いている。

伊藤委員コメント

123名の学生が入学予定であることは素晴らしい。これだけ維持しているということは広報ができているということである。HPやヘアショーの動画楽しみにしている。

(基準8) 継続して、問題なく実施できている。

委員コメント 適切に行われている。

(基準9) ・全職員が重点目標に対し理解を高めて、自己評価し問題解決に向かっている。

・定期的に自己評価委員会及び関係者委員会を実施し、定期的に自己評価を行い、随時公開していく。

委員コメント 適切に行われている。

(基準10) 継続して、問題なく実施できている。

委員コメント 適切に行われている。

2. 重点目標について（別紙1・2参照）

（1）令和2年度重点目標実施報告

小出委員コメント

・いいところを拾ってそれを伸ばして褒める。それが自信につながると思う。

伊藤委員コメント

・これがすべてできる人は本当に理想的であるが、一つずつできていけばいい。そんな中でも挨拶礼儀は本当に大事だし、この学校の生徒はできていると思う。

小出委員コメント

・挨拶も大事だけれど、姿勢もいと気持ちいですね。背筋がピンとしているとよい印象を与える。

3. カリキュラムとシラバスについて

カリキュラムとシラバスについての確認をしていただいた。シャンプー実習はサロンの先生方にご協力を頂く。カラー実習、ネイル授業はクラス分散型で行う。

委員コメント

適切に行われている。

カラー塗布はユーチューブなどの動画配信を行えば、自宅でも学べると思う。健康運動学も、体や気持ちをほぐす良い機会であると思うので、できる形で実行するのもよいと思う。

4. 産学連携授業について

委員コメント 適切に行われている。どの技術も産学連携にふさわしく、引き続きネイル、メイク、カット、カラー、コミュニケーションで行っていく。連携企業と教職員の研修も授業計画に合わせ実施していく。

5. 学生の様子

1年生はシラバスが終了していく中で、たくましく頼もしくなっていて、ヘアショーの準備も落ち着いて行っている。2学年の就職内定状況はあと1名が決まっていない。2学年美容科はあと2週間ほどで筆記の国家試験となってきた。感染対策を十分に行って、残りの時間しっかりと取り組ませて、全員が合格できるように持っていきたい。

6. 業界から

伊藤委員コメント

・新入社員の勉強の機会が減ってしまった。業界全体の離職率がどうだったのか気になるところだ。サロンにとって新入社員のモチベーションの維持が課題だった。ナガコレもどんな形でもやるという方向である。業界全体が講習会やイベントを2年も続けてやらないと衰退してしまう危険がある。意欲を掻き立てることも大事な仕事。感染対策を十分行い実施していきたい。

小出委員コメント

生徒も先生も得体のしれないものに注視しながら、これをやったらまずいんじゃないかという何が正解なのかを探るような年であったと思う。組合もリモート会議を行っていた。心配なのは、新2年生で、新校舎にも入れないという状況であるため、満足緒をあげていけるよう工夫していってほしい。

伊藤委員コメント

感染症拡大の中、感染者を出さなかった。美容所は必要な職種であり衛生法を学んでいる職種である。美容師は密接であるが、衛生法を学んでいる以上、お客様が安心して来店されるよう、感染者を出さない、人へ感染させない。こんな時だからこそ、衛生法規の国家資格者として確立できた。しっかり、アピールしてほしい。

令和3年度 第1回教育課程編成委員会 令和3年8月 9日（月） 10：30～